

Cactus（下）

テストのビルドおよびデプロイの方法

付録 A の手順でアプリケーションのインストールとビルドを行う(データベースのビルドも)。そして、アプリケーションのルートディレクトリの下に cactus というディレクトリがあるので、そのディレクトリに移動し、ant を実行する。

```
C: ¥ej bmarket> cd cactus
C: ¥ej bmarket¥cactus> ant
```

すると、cactus ディレクトリの下に packaging ディレクトリの下に ejbmarket_cactus.ear というファイルができるので、これを次のようにデプロイする。

```
C: ¥ej bmarket¥cactus> ant deploy
```

当然、デプロイ時には WebLogic Server が起動していなければならない。また、ejbmarket_cactus.ear ファイルはアプリケーションのビルド手順で生成された EJB をパッケージ化しているので、JNDI 名が同じものになっている。したがって、ejbmarket_cactus.ear をデプロイするときは、アプリケーションの各 EAR ファイルをアンデプロイしておかなければならない。さもないと、JNID 名がバッチングしている旨のエラーメッセージに遭遇し、デプロイが失敗する。

テストの実行方法

テストの実施には、データベースが起動していること、WebLogic Server が起動していること、ejbmarket_cactus.jar がデプロイされていることが前提となる。それらを確認した上で、cactus ディレクトリから次のとおり環境変数を設定し、テストを実行する。

```
C: ¥ej bmarket¥cactus> setenv.cmd
C: ¥ej bmarket¥cactus> java junit.swingui.TestRunner
```

すると図 2 の画面が表示されるので、Test class name に ejbmarket.cactus.EjbmarketTestSuite と入力し、[Run]ボタンを押下してテストを実行する。

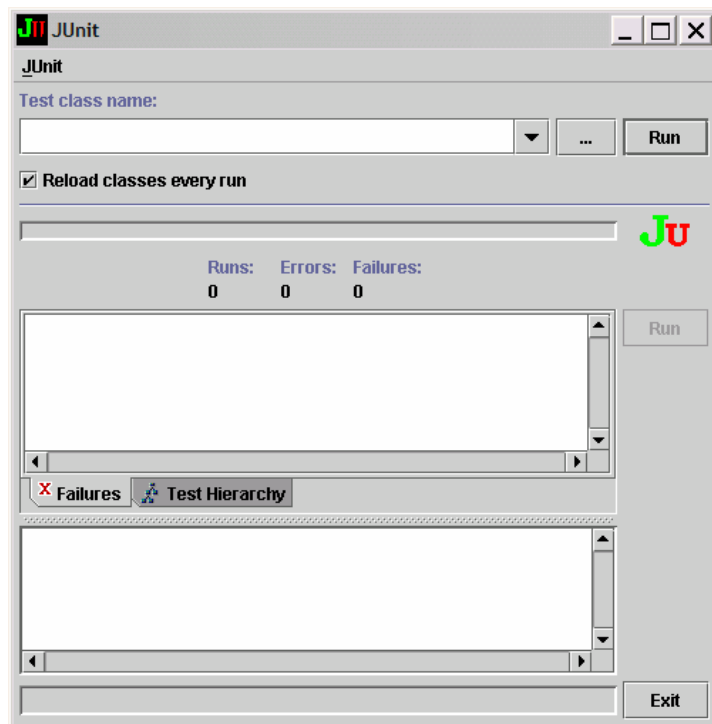


図 2 GUI ベーステスト画面

全てのテストが成功すると、画面のバーが緑色で表示される。テストがひとつでも失敗すると、バーは赤色で表示される。

また、次のようにして JUnit の GUI 画面を使用しないテスト実施も可能である。

```
C: ¥ej bmarket¥cactus> java ej bmarket. cactus. Ej bmarketTestSui te
```

その他の注意事項

JUnit では、GUI 画面を起動したまま、[Run]ボタンを押せば毎回最新のバイナリが動的にロードされるようにするため、カスタムクラスローダを実装している。このクラスローダに対し、ロード対象外にするよう指示するファイル `excluded.properties` が `junit.jar` に入っており、デフォルトでは次のような内容になっている。

```
#
# The list of excluded package paths for the TestCaseClassLoader
#
excl uded. 0=sun. *
excl uded. 1=com. sun. *
```

```
excl uded. 2=org. omg. *  
excl uded. 3=j avax. *  
excl uded. 4=sunw. *  
excl uded. 5=j ava. *
```

Cactus と共に使用する場合はこれらに加えて org.apache.commons.logging パッケージのクラスを対象外とするよう、次の一行を加えなければならない。

```
excl uded. 6=org. apache. commons. l oggi ng. *
```

そして、次のようにして junit.jar の excluded.properties を変更を加えたものと入れ替えておく。

```
> j ar uf j uni t. j ar j uni t/runner/excl uded. propert i es
```

以上の操作は NoClassDefFoundError に遭遇しないようにするために、必要である。なお、本書付属の CD-ROM のライブラリは既にこの処置を施してあるので、行う必要はない。